

卸・小売部会正副部会長会 議事録

日 時：令和3年11月30日（火）14時～15時

場 所：商工会議所 4階 会議室 EF

参加者：10名

【副部会長】社本、水谷、小林

【副会頭】水野 【事務局】山田、鈴木、白木、小栗、大西

- 議 題：1）令和3年度 部会事業について
2）令和4年度 部会事業計画（案）について
3）その他

はじめに、社本部会長より挨拶。

議題1）令和3年度 部会事業について
事務局より資料に沿って説明。

社 本：今年度の部会事業について意見を求める。

水 谷：資料にはないが、当社も持続化給付金の申請を行ったため、会議所が実施している申請のサポートは助かるだろうと思う。時代に即した事業を実施していただけてよかった。

小 林：8月9月はコロナまだまだコロナの影響が大きかったため、なかなか事業実施に際しても難しかったかと思うが、その中でもいろいろな事業を実施していただいた印象である。

社 本：補助金等も政府としては精一杯やられたと思う。アメリカなどに比べ日本はデジタル化が進んでおらず、助成金がもらえる人ともらえない人との差が激しい。
だが、中小企業は5割や3割落ちたら本当に苦しい。また、新事業への補助金も、業種をまるきり変える必要があるので利用が難しい。

社 本：つかエールについて、去年と比べ事業喚起の効果はどうか。今年は効果が薄くその後の売上につながっていないように思う。こういった事業を実施しても、プレミアム分があっても余分に買うわけではなく、本当に使う分だけ購入する印象。

水 野：今は“モノ”の購入よりコト消費が多いような気がする。コロナが終われば旅行等が回復してくるだろうが、消費がモノの購入にまで回ってくるかは疑問。

議題2）令和4年度 部会事業計画（案）について
事務局より資料について説明。

社 本：来年度の計画について意見を頂きたい。

水 野：ウィズコロナというが、これからのことは想像がつかない。市は効率化やIT化でコロナ禍を乗り切れというが、中小企業がそれだけの効率化ができるか不明。

会議所としても事業など様々考えているが、特に商業・サービス業は決め手がない状態。ここだけは押さえたほうがいい等、ぜひ部会長・副部会長の意見もお聞きし事業を考えて行きたい。

社 本：先日パン屋の会合に参加したが、値上げの話題が多い。各社様々なやり方で工夫されている。

水 谷：今後は同じものでも、どう付加価値をつけていくかがカギになる。

水 野：イーアスという商業施設ができたが、今までの大型ショッピングセンターとは業態が随分変わったという印象。小さな店がたくさん入っているのではなく、ある程度知名度のあるテナントへ目的をもって行くことを想定している。世間的にもその風潮になっていくのであれば、商店街などは成立しないのではないかな。

水 野：会頭が部会の活性化を目指していることから、来年度部会の再編を考えており、卸・小売業部会は飲食業部会との合体を考えている。これはまだ確定ではないが、飲食業部会とはキャッシュレス化やIT化など共通項がある為、連携していきたいが難しい面もあるかと思う。

社 本：たしかに飲食と小売の販促方法は全く違う。

水 谷：だが、業種の垣根がなくなってきているのも事実。自分が自身の業界だけ見ても成長できないので、さまざまな意見を聞ける面では良いと感じる。

社 本：テイクアウトブームはすぐ収まると思い、自身はあまり力を入れていなかったが、このまま需要が続くのであればそれに特化したサポートなども行っていくべきではないかな。

水 野：当店もデリバリーをやっているが、この1年で売上の割合がつかめてきた。デリバリーは一定数の需要があると考え、部会としてECサイトやネットショップの研究を行ってもいいと考える。デリバリーの文化が根付いてくれば需要は増える。

議題3) その他

事務局より資料に沿って説明。

意見等とくになし。

水野副会頭よりあいさつ

15時終了。